

図 書 ニ ュ ー ス 第 1 号

2006年4月28日

大阪府立北野高校 図書館

四月の下旬になっても肌寒い日が続き、桜の花もまだ残っていたりして、いまひとつ春らしい気分になれないこのごろですが、今年もゴールデンウィークの時期がやって来ました。連休の間に少しでも本を読んでもらいたいと思い、図書館にあるおすすめの本を紹介します。記事中の（954/S10/1）等とあるのは本校図書館における図書の分類番号です。

ファンタジー系の本から

なんといっても、ハリー・ポッターのシリーズ（静山社）が超人気でよく借り出されます。今年は新本も出版されるそうです（図書館でも購入することになるでしょう）。映画化もされて見ている人が多いようなので、これは紹介するまでもないでしょう。それ以外となると…

①サン・テグジュペリ「星の王子さま」

昨年は「星の王子さま」の新訳が一挙に4冊も出ました。それぞれ特色のある翻訳なので読み比べてみるのも面白いと思います。挿し絵はどれも同じで、サン・テグジュペリ自身の手によるすばらしいものです。（ちなみに僕は、最初に出てくる、うわばみに呑み込まれたゾウの絵が大好きです）図書館に全部あるので、ぜひ手に取って見て下さい。（953/S10/2～7）

*池澤夏樹訳「星の王子さま」（集英社）

訳者の池澤夏樹は小説家。主な作品は「スティル・ライフ」「マシマス・ゴリの失脚」「静かな大地」など。

*倉橋由美子訳「星の王子さま」（宝島社）

訳者の倉橋由美子は小説家。主な作品は「パルタイ」「アマノン国往還記」など。

*山崎庸一郎訳「小さな王子さま」（みすず書房）

訳者の山崎庸一郎は「人間の土地」「夜間飛行」など、サン・テグジュペリの多くの作品を翻訳しているフランス文学者。

「星の王子さま」の原題は「Le Petit Prince」で直訳すれば「小さな王子」です。この山崎訳だけがそのように訳しています。

*小島俊明訳「星の王子さま」（中央公論新社）

訳者の小島俊明は詩人でフランス文学者。詩集に「組詩 セバスチャン・バッハの朝」「アシジの雲雀」。



このほかに、長年多くの人に愛されてきた内藤濯訳「星の王子さま」（岩波書店）ももちろんあります。フランス語の原書と英訳本もあります。フランス語はともかく、英訳なら何とか読めると思います。英語の勉強をかねて読んでみてください。

②アーシュラ・K. ル＝グウィン「ゲド戦記」全5巻（岩波書店）

（933／L9／1－1～6）

無数の島々と海からなるアースシー（EARTHSEA）。並はずれた魔法の力を持つ男ゲドの波瀾万丈の生涯を軸に、アースシー世界の光と闇を描く壮大な物語。Ⅰ影との戦い Ⅱ壊れた腕輪 Ⅲさいはての島へ Ⅳ帰還 Ⅴアースシーの風、の5巻からなり、昨年になって「外伝」が追加されました。

③C. S. ルイス「ナルニア国物語」全7巻（933／L10／1－1～7）

人間の世界とはまったく異なる空想上の国ナルニア。その誕生から滅亡までを、その折々に偶然にナルニア国にやってきた子どもたちの冒険を通して、空想力豊かに描く壮大なファンタジー。最近入ったばかりの本です。

④ミヒヤエル・エンデ「モモ」（岩波書店）（943／E1／2）

1982年に出版された、時期的には少し古い本ですが。中味は少しも古びていません。読み始めるときっと夢中になることでしょう。内容は、時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子の不思議な物語です。図書館には単行本と全集の一冊として出ている本（948／E1／1－3）の2種類があります。本の返却期日票を見ると、単行本の方は38回、全集の方は18回、合わせて56回借り出されていることがわかります。その人気ぶりがうかがえると思います。

⑤ミヒヤエル・エンデ「はてしない物語」（岩波書店）（943／E1／1）

「モモ」と同様、エンデの作品の中で最も人気のあるものです。内容は、物語の呼びかけに応じ、本の中に入り込んだ少年の不思議な冒険の物語です。この本も「モモ」と同じくらいよく読まれています。ハリー・ポッターとはまた違うファンタジーの世界を楽しんでみて下さい。

ミステリー系の本から

①ダン・ブラウン「ダヴィンチ・コード」（角川書店）（933／B22／2－1～2）

世界的にブームを巻き起こしている作品で、すでに読んだ人も多いと思いますが、今回「ヴィジュアル愛蔵版」が入りました。図版が多数入った豪華版です。一度読んだ人も、もう一度いかが？

②コナン・ドイル「シャーロック・ホームズ」シリーズ（東京図書）（933／D4／3－1～21）

コナン・ドイルが書いたシャーロック・ホームズものには、5冊の短編集と4冊の長編がありますが、短編集では「冒険」「生還」「回想」をまず読むのがよいと思います。新潮、角川、創元社など、いろんな文庫で出ていますが、図書館にあるのはベアリンググールドという人が編集した詳細な注のついた全集です。ホームズの物語には多くの挿し絵がついていて、それがまた魅力の一つをなしているのですが、それらの挿し絵ばかりを集めた本もあります（「シャーロック・ホームズ原画大全」（講談社）（930／S4／1））こちらもおすすめです。また、ホームズ関連書もいろいろあります。

小林司＋東山あかね「シャーロック・ホームズへの旅」

（東京書籍）（930／K12／1）

エドガー・W・スミス「シャーロック・ホームズ読本」

（研究社）（930／S9／1）

ロナルド・ピアソール「シャーロック・ホームズの生まれた家」

（新潮選書）（930／P3／1）

現代日本の小説から

近年は女性の作家の活躍が目立ちます。宮部みゆきの本は特に人気が高いようです。今回は恩田陸の本をまとめて紹介します。

①「夜のピクニック」（913／03／1）

夜を徹して80キロを歩き通すという、高校生活最後の一大イベント「歩行祭」。生徒達は、親しい友人とよもやま話をしたり、想い人への気持ちを打ち明け合ったりして一夜を過ごす。そんななか、貴子は一つの賭けを胸に秘めていた。三年間わだかまった想いを清算するために――。今まで誰にも話したことの無い、とある秘密。折しも、行事の直前にはアメリカへ転校したかつてのクラスメイトから、奇妙な葉書が舞い込んでいた。去来する思い出、予期せぬ乱入者、積み重なる疲労。気ばかり焦り、何もできないままゴールは迫る――。

②「光の帝国 常野物語」（913／03／4）

不思議な能力を持ち、それぞれの道を歩む常野一族を描くファンタジー。

③「蒲公英草子 常野物語」（913／03／3）

少女の目を通して、時を超えた約束と想いを描いた感動長編。

④「エンドゲーム 常野物語」（913／03／6）

裏返されたらどうなる？正体不明の存在「あれ」と戦い続けてきた一家。最後のプレイヤーとなった娘が誘い込まれたのは、罠と嘘の迷宮だった。「常野物語」最新長編。

⑤「ユージニア」（913／03／2）

遠い夏。白い百日紅の記憶。死の使いは静かに、街を滅ぼした。知らなければならぬ。あの詩の意味を。あの夏のすべてを。

⑥「ネクロポリス」上下（朝日新聞社）（913／03／5－1～2）

懐かしい故人と再会できる聖地——アナザー・ヒル。死者たちを「お客さん」と呼び、温かく迎えるヒガンという祝祭空間。連続殺人、不可思議な風習、天変地異、そこに新たな事件が——めくるめく想像力でつづられる謎とファンタジーの結晶体。

最近の話題の本から

①ユン・チアン／ジョン・ハリデイ「マオ 誰も知らなかった毛沢東」上・下（講談社）（289／M8／5－1～2）

新たな資料と証言で明かされた驚くべき真実。権謀術数渦巻く20世紀中国を圧倒的な筆致で描いた歴史巨編。筆者の一人ユン・チアンは全世界で1000万部以上を売り上げたベストセラー「ワイルド・スワン」の著者。

②白石昌則「生協の白石さん」（講談社）（049／S2／1）

どんな要望や質問にも誠実に答えてくれる白石さん。まじめで、おかしくて、癒される「白石さん現象」をまるごと収録。

③斎藤美奈子「物は言いよう」（平凡社）（367／S20／1）

筆者は気鋭の文芸評論家。同じ著者の「文章読本さん江」「文壇アイドル論」はすでに図書館に入っています。「妊娠小説論」「紅一点論」は文庫化もされています。

本書のキー・ワードはフェミ・コード、略してFC。むずかしく定義すると、言動がセクハラや性差別にならないかどうかを検討するための基準。筆者によると、フェミコードがなぜ必要かというと、ひとつは人を不快にさせない（または苦笑させない）ため、もうひとつは自分自身の品位を下げない（または嘲笑されないため）だという。筆者は本書で具体的にいろんな人の発言（男とは限らない）を取りあげて、そのFC度をチェックしているが、その文章には芸とユーモアがあり、楽しみながら読むことができる。

今年は、始業式の前、4月5日・6日に新入生へのオリエンテーションの一環として、全員に図書館に来てもらって案内をしたせいか、年度初めから、例年より来館者が多いようです。今回紹介した本以外におもしろい本がたくさんありますし、これからもどんどん入ってくるので、少しでも時間のある時に図書館まで足を運んで、たとえ1冊を終わりまで読めるかどうかわからなくても、とりあえず借りてみて下さい。